

静岡県 MSW 協会の研修における現状と課題 ～アンケート調査から見てきたこと～

静岡福祉大学 檜木博之

(静岡県医療ソーシャルワーカー協会研修委員会)

要旨

会員数の減少及び県協会主催の研修への参加者の減少という現状に対して、協会の研修のあり方を見直す機会にきている。研修シラバスやルーブリックを作成して5年近く経過しているが、その後の検証も行えていない。そのため研修委員会を再構築し、県協会における研修のあり方及び今後の方向性を明確にしていくことを目的にアンケート調査を行った。

1 研究目的

静岡県医療ソーシャルワーカー協会（以下県協会）では、医療ソーシャルワーカー（以下MSW）の現場教育の課題及び今後の研修の方向性を明らかにすることを目的とする。

2 研究方法

県協会会員281名に対して、Googlefoamによるアンケート調査を行った。調査期間は2023年11月～12月とし、64名の回答があった。回収率は22.78%である。

倫理的配慮として、依頼文書に研究目的及び収集したデータの取扱い等について説明を記載し、回答をもって同意を得たこととした。また個人が特定されないよう配慮している。

尚、本調査の実施については県協会理事会の承認を得ている。

3 結果

(1) 回答者の基本情報

年齢は20歳代6名(12.5%)、30歳代20名(31.3%)、40歳代26名(40.6%)、50歳代9名(14.1%)、60歳代1名(1.6%)であった。

経験年数は4年未満7名(10.9%)、5～9年14名(21.9%)、10～14年18名(28.1%)、15～19年7名(10.9%)、20～24年15.6%、25～29年6名(9.4%)、30年以上2名(3.1%)であった。

所持資格は、社会福祉士63名(98.4%)、精神保健福祉士25名(39.1%)、介護福祉士4名(6.3%)、介護支援専門員21名(32.8%)であった。

勤務している機関は病院54名(84.4%)、介護老人保健施設6名(9.4%)、診療所2名(3.1%)、その他2名であった。

加入している職能団体は、社会福祉士会26名(60.5%)、日本医療ソーシャルワーカー協会

21名(48.8%)、静岡県精神保健福祉士協会3名(7.0%)であった。

(2) 研修に関する回答

1年間のMSWとしての質の向上のための研修への参加については、「ある」44名(68.8%)、「ない」20名(31.3%)であった。参加しなかった理由では、「家庭の事情のため」13名(59.1%)で最も多く、次いで「業務多忙のため」9名(40.9%)、「時間が合わない」6名(27.3%)という結果だった。

研修の必要性については、「感じる」54名(84.4%)、「少し感じる」9名(14.1%)、「どちらともいえない」1名(1.6%)であった。必要性を感じる理由は、「資質を向上させる」55名(87.3%)、「知識をつける」52名(82.5%)、「最近の動向を知る」42名(66.6%)、「情報交換」37名(58.7%)等であった。

期待する研修内容では、「各種制度」43名(67.2%)、「事例検討」36名(56.3%)、「ネットワーク作り」35名(54.7%)、「アセスメント」32名(50%)等であった。

望む研修スタイルは、「大人数での講義形式(対面)」41名(64.1%)、「少人数のグループワーク(対面)」30名(46.9%)、「オンラインでの講義形式」26名(40.6%)、「ハイブリッドでの講義形式」23名(35.9%)等であった。

4 考察・結論

回収率の低さ、30～40歳代で経験年数10年前後の会員が多い結果は、本会の現状を占めていると言える。新卒の会員を対象に実施してきた初任者研修からのシフトチェンジを図っていくこと、会員が参加しやすい研修のあり方を模索していく必要があることが見えてきた。そのような中でも、長年継続してきた「事例検討」を守り続けていく必要性も強調したい。